

4.1.4 希釈放出しても放出量は同じであり、人体への影響があるのでは？

回答：量の問題ではなく濃度の問題です。他に多くある有害物質と同様に、基準値以下の濃度であれば、科学的にまったく問題ありません。

パラケルススという医学者（植物学者でもあります）が「毒はあらゆるものの中に存在し、毒の無い物は何一つ存在しない。毒になるかならないかは投与量（血液中の濃度）が決めるのだ」と言っているのです。



日本で原発が運転されてから 50 年近くになりますが、この間、トリチウムは普通に海洋放出されてきました。3.11 前には、原発から年間約 380 兆ベクレルのトリチウムが海洋に放出され続けていたのです。そして、今も再稼働した原発からトリチウムは普通に放出されているのです*1。これは日本に限らず、世界中の原発から今もトリチウムが排出されています。

そもそも、トリチウムは天然に存在する物質であり、宇宙線と窒素・酸素原子との衝突でも生成されています。日本（世界）中の河川からおよそ 1 ベクレル/ℓの割合で膨大な量のトリチウムが毎日、海に流れ込んでいます。海水中には 1~3 ベクレル/ℓのトリチウムが存在するのですから、基準値以下であれば十分安全なのは自明なことです。

*1 ALPS（アルプス）処理水やその処分方法 詳細版（経済産業省）

https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/pdf/alps_02.pdf

（2019 年 10 月回答、2021 年 10 月改訂）